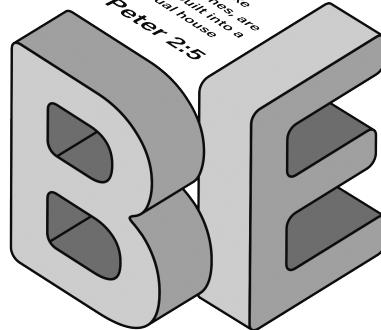


YOUTH MANNA



あなたがた自身も生ける石として靈の家に築き上げられ、神に喜ばれる靈のいにえをイエス・キリストを通して獻げる、聖なる祭司となります。

(ペテロの手紙第一 2章42節)

<p>YOUTH MANNA</p> <p>BE</p> <p>あなたがた自身も生ける石として靈の家に築き上げられ、神に喜ばれる靈のいにえをイエス・キリストを通して獻げる、聖なる祭司となります。</p> <p>(ペテロの手紙第一 2章42節)</p>	<p>2026/1/26(月)</p> <p>I テサロニケ 4章</p> <ul style="list-style-type: none"> ●テサロニケの教会の人は、パウロ達から「神に喜ばれる歩みとは何か」について教えられていた。パウロが説明している「神様に喜ばれる歩み」をまとめてみよう。(3-5、10、11-12、18) ●あなたが教会のお兄さん、お姉さん、また家族から教えられたことはあるかな?最近、家の教会で「この人は模範にしたい」と思った友達はいるだろうか。また、実践できる「神様に喜ばれる歩み」を1つ選んで、やってみよう! 	<p>2026/1/27(火)</p> <p>I テサロニケ 5:1-11</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1節の「その時」とはどんな時のことと言っているかな? ●主の日とは世が終わる時のことと言うよ。マタイ24章でイエス様が語られた通り、その日は思いがけない時に来るんだ。イエス様が弟子たちに「目を覚ましていなさい」と命じたように、パウロも同じく教えている。目を覚ましているとは、君にとってどういうことだろう?また、眠ってしまうとはどういうことだろう? ●10節を読もう。イエス様と共に生きるようにされたことを感謝して受け取り、祈って出ていこう! 	<p>2026/1/28(水)</p> <p>I テサロニケ 5:12-28</p> <ul style="list-style-type: none"> ●12-13節を読んで、誰のことを思い浮かべるだろう?その人に愛を持って尊敬を払うことをどのように表すべきだろう? ●14-22節を読んで、聖靈が特に君の心に光を当ててくださっているところはどこだろう? ●私たちを「完全に聖なるものと」するのは神様ご自身がなさることだと書いてあるね。それが君に向かっている神様の心なんだ。今自分自身を神様に委ね、サタンや自分の欲の声ではなく、君の内に生きて働いてくださる聖靈に聞き従って歩もう!
<p>2026/1/29(木)</p> <p>II テサロニケ 1章</p> <ul style="list-style-type: none"> ●テサロニケの人たちは何と何を保っていたかな?4節 ●私たちの神がどんな者にするって書いてあるかな?11節 <p>この箇所は、迫害と試練の中にあるテサロニケへパウロが励ましの手紙の最初の箇所だよ。テサロニケの人たちは苦しいなかでも忍耐と信仰を守っていたよね。それは神の国にふさわしくなるため試練でもあったんだ。私たちクリスチャンは、自分の力じゃなく神様によって完成に導かれるよ。クリスチャンは信仰と愛の実を結ぶために神様に整えられる必要があるんだ。私たちも信仰と愛の実を結べるように祈ろう!</p> 	<p>2026/1/30(金)</p> <p>II テサロニケ 2章</p> <ul style="list-style-type: none"> ●15節を読もう。パウロはテサロニケの教会の人達に何を守るように教えているかな? ●「私たちから学んだ教え」って、私たちにとってはどんなことだろう?最近の礼拝やユースの時間に学んだことを思い出そう。 ●テサロニケの教会は外から入った間違った教えによって混乱していた。だからパウロは正しい教えを守るようにと教えたんだ。教えを守る生活はどんな生活か考えてみよう。そして、今日1日、最近学んだことを心に留めて過ごそう。 	<p>2026/1/31(土)</p> <p>II テサロニケ 3章</p> <p>パウロは手紙の最後に「祈ってください」とテサロニケの人々にお願いしている。神様の福音が広がっていく時には、必ずそれを邪魔したり、迫害したりするものが出てくる。だからこそ、祈る必要があるし、祈られる必要もあるんだ。</p> <p>そしてテサロニケの人々にも信仰によって神様に従って歩むことを願った。中にはそれが難しい人も出てくるけれど、敵ではなく兄弟のように教えたり、ときにはしかったりするように励ましたね。</p> <p>君は今、イエス様を信じていること、イエス様の救いのことを伝えることで難しさを感じていることは何かな?それを教会の友だちと話して祈り合おう!</p>	<p>2026/2/1(日)</p> <p>民数記 13:1-24</p> <p>エジプトを出たイスラエルの民は、これまで神から約束された地を見ることなく旅をしてきましたが、いよいよカナンの地が目前に迫った時、主は約束の地を偵察するように命じました。目に見える形で、神様の約束を確認する機会が与えられたんだね。</p> <p>私たちも、神様が約束してくれることを、「見せてくれれば確信がもてるのに」、と思うことはないでしょうか。ただ見ることが信仰につながるのか、信仰をもって見ることが確信に繋がるのか、どちらなのでしょう。</p> <p>私たちの目に良いと思えない時、それは神様の約束が違ったんでしょうか。毎日の信仰生活を、日々の現実を私たちはどのように見ているのか、静まり考えてみよう。エペソ1:18-19を読み、信仰の目が開かれることを祈ろう。</p>